

[Civic Hack Osaka 2014](#)

の成果発表資料に,
技術的な説明などを加筆したものです.
(2014/09/30加筆)

ぷっしゅ！大阪

届け！広報
K彦の野望

チーム：ぷっしゅ大阪

ぶっしゅ大阪 目次

- プロローグ
- 目的
- 誰のため？
- 解決策
- アプリの概要、何ができる
- 技術について
- どうやって使ってもらおう？
- 今後の展望

ぷっしゅ大阪 登場人物

磯村 K彦 … 大阪市市民局区政支援室
地域資源担当課長代理
48歳

ぷっしゅ大阪 プロローグ

街路樹のセミの鳴き声が騒々しい夏の終わり、大阪市役所庁舎のキンキンに冷えた一室でK彦はため息交じりに呟いた。

「なぜだ。」

K彦の表情は冴えない。

「なぜ市民は広報紙を読まないんだ。」

K彦は逡巡する。

「広報紙が冴えないのか。 たしかにそうだ。 だからと言って目先を変えたぐらいで果たして読んでくれるのか。 俺には市民の意識を変えるだけの力は・・・。」

ぶっしゅ大阪 目的

K彦はここ数カ月悩み続けていた。そう、市役所の情報が市民に届いていない。どうすれば届くのか。読んでもらいたい情報があり、きっと市民にとって必要な情報もあるはず。読んでもらって初めて意味がある。なのに読んでもらう為の有効な手段が見つからない。

女性とのデートで蘊蓄話をして恰好つきたいのに、肝心な言葉が思い出せない。そんなもどかしさを感じていた。

「何とかしたい。市民の為にも情報を伝えたい。」

市民の為、そう言ってK彦ははたと気が付いた。

「市民の為とか言うから俺は本気になれなかったんだ。」

ぶっしゅ大阪 誰のため？

「俺の為！！」

K彦はカッと眼を見開き、研ぎ澄ました日本刀で邪念を切るかのごとく言い放った。

「そうさ、俺の為さ。俺の為に作る事が市民の為になるんだ。俺が本気にならなくてどうする。」

「市民はそこまで思っていないかもしれないが……。そのくせ、知らなかったって後で文句言うんだ。だったら広報ちゃんと読んでくれって。。。しかしどうする……」

ぷっしゅ大阪 解決策

「そうだ！送りつけてやろう！」

K彦は心の中で呟き、静かに逆襲の炎を燃やし始めた。

「有無を言わさず一方的に送りつけてやればいいんだ。プッシュだ、プッシュ!! 送りつけてイヤでも読むように仕向ければいいんだ。まずはどうやって送り付けるか、だな。」

「そうだ、彼女を利用してやろう。」

K彦は知り合いのエンジニア大西裕子を思い浮かべ、一人薄笑いを浮かべた。

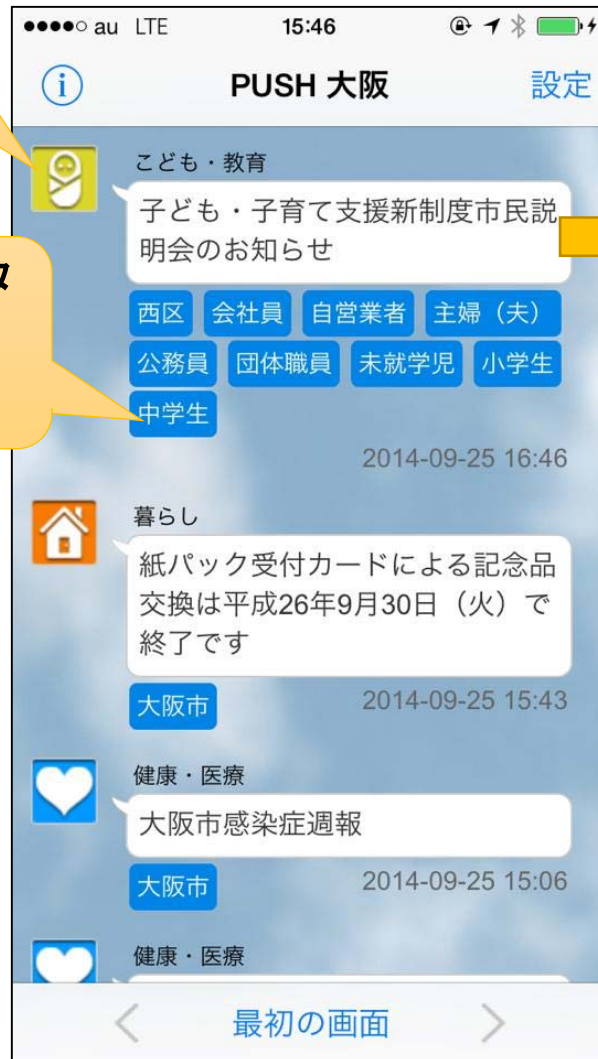
「彼女ならできるに違いない。」

ぷっしゅ大阪 アプリの概要、何ができる

大西さんデモよろしく！

「PUSH 大阪」の画面イメージ (iPhone版) ①

メイン画面



記事の詳細



「PUSH 大阪」の画面イメージ (iPhone版) ②

取得情報の設定画面



ぶっしゅ大阪 アプリの概要、何ができる

ポイント

① 面白い！

※ そもそも広報は面白さを追求したものではないが。。。

② 自分と家族に関係がある情報だけだから読みやすい！

※ 広報紙を電子化し、スマートフォン向けに配信するアプリ（i広報紙）は 既にあるが広報紙そのまま。自分の属性を把握して配信してくれるものはない（はず）。

③ 広報発信の都度更新されるのでいつでも最新情報が手元に！

※ 紙媒体は情報が古く、ホームページは探さなくてはならない。

④ 誰でも簡単設定！

ぶっしゅ大阪 技術について

木村さん、古崎さん、よろしく！

「PUSH 大阪」の技術的説明

解決したい問題

1. 行政が発信する情報が、なかなか市民に届かない。
2. 新しい仕組みを導入する際に、行政職員の作業コストを増加させたくない。

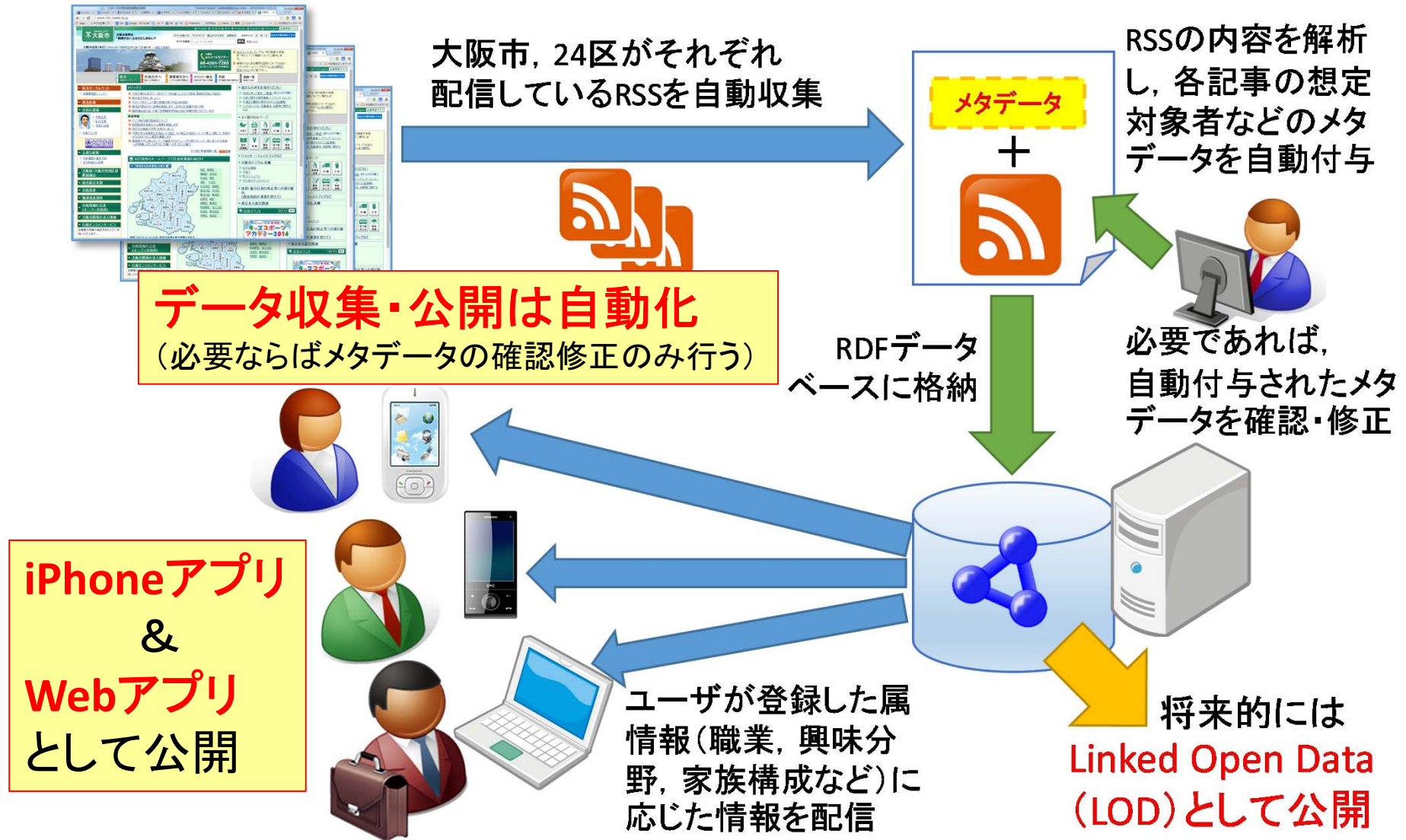
→既存の情報・仕組みを、うまく活用することで解決したい。

解決のアプローチ

1. すべての情報を一律に提供するのではなく、利用者が「**関心のある/必要な**」情報のみを(プッシュ)配信する
2. 既に多くの情報が配信されているRSSを利用することで、作業コストを増やさずにサービスを実現

→「**PUSH大阪**」の開発

「PUSH 大阪」の仕組み



「PUSH 大阪」の特徴

1. ユーザの属性(居住している区/男女/職業/関心)に応じた情報の配信
 - 情報の絞込も簡単に可能
 - プッシュ配信機能も作成予定
2. 既に配信されているRSSを利用することでサービスを開始できる
 - 新しくデータを作成するコストが不要
 - すぐにサービスを開始することができる
 - 大阪市に限らず, RSSを配信している自治体であれば, すぐに同じサービスの提供が可能
 - 最低限, 必要な設定は, RSSファイルを指定するだけ
3. 導入が進めば, ユーザのWeb閲覧履歴を活用した情報分析への応用が見込まれる

ぶっしゅ大阪

どうすれば使ってもらえる？

「だが待てよ、どうすれば市民はアプリをインストールしてくれるんだ？先生が風邪で休んだ子の話をした途端、クラスの半分の子が咳き込むように、どうすれば条件反射のごとくアプリをインストールするんだ。」

「LINEにスタンプを配信するか！・・・しかしそんな予算が通るのか!? そうだ、協賛店舗で使える割引券を不定期で配信するか！ いやいやそれだけではダメだ。やはり地域コミュニティを活用して徐々に浸透させなくては。便利なアプリだって市民に感じてもらう事が一番だ！」

K彦の自問自答は続く。

ぶっしゅ大阪 どうすれば使っ てもらえる？

「おまけで呼び寄せるのではなく、内容で勝負だ！ こうなったら俺が毎日一言ずつ面白いことを呟いて配信してやる!!」

面白いこと「（磯村さんアドリブ）」

「こうなったら、市民にこのアプリのマスコットキャラクター「Hasimo」の人形を配って、インストールした人に新着情報が届いたらHasimoが目を光らせて激昂して踊り出すようにするか!!」

そう言うとK彦はキャンディーを頬張るように口元をほころばせた。

そして一転鋭い目つきに変わり言った。

ぷっしゅ大阪 今後の展望

「待てよ、これは日本中の市町村が使えるじゃないか。これが日本中の市町村に入っていけば…日本中の市町村を大阪化できるという事か！！」

「そしたら利用者が増えて、俺はウハウハ…。いや待て待て、こんなもん市民がお金を払ってまでインストールする訳ないじゃないか。仕方がない、市民向けは無料として、市役所の予算で作るか。だが、全国の市町村に対してはライセンス料を…」

K彦はニヤリとしながら遠くを見る。

ぶっしゅ大阪 今後の展望

「そういえば市役所は住民情報の宝庫じゃないか。そのデータを使えば市民がいちいち面倒な設定をしなくても使えるようになるのでは……」

これまでの悩みが吹っ切れたかのようにK彦はいきり立っていた。

気が付くと外は薄暗く、秋の近づきを感じさせる涼しさが心地よい8月最後の日曜日だった。

完

ご清聴ありがとうございました。

《 チーム：ぷっしゅ大阪 》

磯村 克彦、大西 裕子、木村 満秀
古崎 晃司、吉廣 之晴

「PUSH大阪」公開サイト <http://push.jp.net/>